

# 小児科外来における抗菌薬の適正使用

## 「日本小児科医会声明」

私たちは子どもたちの感染症対策と抗菌薬の適正使用のために  
下記事項を遵守いたします

1. 感染症の予防に努めます

子どもたちの健康な体づくりをすすめます

保育所・幼稚園・小学校に入る前に必要な予防接種は必ず受けるようすすめます

うがい、手洗い、咳エチケットなど基本的な感染予防対策を周知します

2. 十分にデータを活用し、分析したうえで抗菌薬使用の判断をします

流行状況把握、迅速検査、血液検査、培養検査などの情報で判断します

3. 抗菌薬の必要、不要をわかりやすく説明します

4. 抗菌薬は科学的根拠にもとづいて処方します

薬物の有用性を考慮し、適切な量、期間、回数を使用します

5. 最新の医学情報収集に努めます

感染症の発生動向、耐性菌の出現状況、抗菌薬の効果などの最新情報に常に注意します

# 1歳前の子どもたちと感染症の動向

- 毎年4月頃から、保育所などで集団生活を始めた1歳前の子どもたちの感染症罹患による医療機関受診が激増する。
- かつては入学までの約6年かけて罹った感染症に、最初の1年でほぼ罹ってしまうのがこの子どもたちの現状である。
- 子どもたちを感染症から守る手段として、予防接種は極めて有効である。
- 感染症の中でワクチンで防げる病気（VPD）は、その一部である。
- 集団生活において相互感染をなくすことは不可能である。
- 予防接種によりVPDを防ぐことは、集団生活する上での最低条件である。
- 1歳前の子どもたちへの感染症罹患の機会を減らすために、集団生活の開始時期も考慮すべき？
- 政策として「待機児童をゼロ」を目指し保育施設を作り続けるという発想だけではなく、1歳までは自宅で子育てできる環境づくりため、企業協力を求めるなどの政策も極めて重要である。
- 1歳前の子どもたちにとっての感染症対策は、治療手段としての抗菌薬の適正使用にも係わる重要な問題である。